（10・25日毎月２回発行　昭和53年６月25日　第三種郵便物認可）

自治体 あいちの仲間

2006.8.10
No.926

発行責任者　梅野敏基　定価　10円
組合員の購読料は組合費のなかに含まれています

発行所　自治労連愛知県本部　名古屋市北区柳原三丁目7番8号
URL　http://www.jaichi.jp　TEL〈052〉916－2251
Eメール　info@jaichi.jp　FAX〈052〉916－2308

自治労連愛知県本部 第97回定期大会 特集号

憲法改悪・大増税反対！！
今こそ自治体労働者の出番

愛知県本部は、７月26日、県産業貿易会館で第97回定期大会を開催し、代議員や傍聴・中央委員など約２００人が参加しました。最初に羽根委員長が執行部を代表してあいさつ。来賓には自治労連の駒場忠親委員長、愛労連榑松佐一事務局長、日本共産党八田ひろ子前参議院議員が駆けつけました。討論では28人が発言しました。

住民との共同すすめ 自治体労働者の役割発揮を

田上代議員
（名古屋市職労）

昨年12月に名古屋市立則武保育園を廃園し民間保育園を建設する提案が健康福祉局より突然だされた。建て替えの要望を出していた父母の会は、廃園反対の声を大きくあげた。保育者も父母に信頼される保育ができているのか保育を見直すきっかけになり地域の反対運動が急速に広がった。「保育の継承をしてほしい」と保育内容について、父母の会が市や法人に要請し、激励の集会やターミナル宣伝などマスコミも取り上げる運動となった。結果は廃園を阻止できなかったが、保育ネットワーク名古屋を立ち上げて運動を進めてきた。

小川代議員
（田原市職労）

旧渥美町が昨年10月田原市に吸収合併。田原市職労は当局に職場の声を伝え代弁する役割を果たしている。調整手当ゼロとなり、臨時職員も賃金が下がり、職場の雰囲気もあまりよくない。全職員対象に８００枚のアンケートを配布し、サービス残業があるなどの声が寄せられている。堀切保育園建て替えに伴う給食センター化が提案される。自園・方式の評価は高く、保護者の反対運動を起こし署名を開始した。組合も奮闘している。ＰＴＡ連絡協議会もアンケートで自園方式を求める声が多いことを教育委員会に提出している。

小島代議員
（犬山市職労）

保育所部会では１月に保育労働者の全国集会を成功させることができた。半年に及ぶ準備で１２００人愛知で６００人の参加。若者によるオープニング企画「名古屋でＧＯ２」を踊った。話もできない現場で、準備に集まって交流もできた。合同保育研究集会07年につなげていきたい。実行委員会に参加してやっていきたい。保育予算の一般財源化によって民営化がすすんでいる。名古屋で則武保育園が廃園反対のたたかいをした。地域に根ざし、地域になくてはならない保育園にすることが大切。署名や保育の運動を住民と進め知恵をだしあっていきたい。

（２面に続く）

官民比較企業規模 引き下げ強行で
月例給１％　特別給を値切り

不当な06人事院ゼロ勧告!!
（8月8日発表）

人事院が８月８日に行った06人事院勧告は、公務員賃金を１％以上「値切る」ものであり、一時金についても０・05月分「値切る」という極めて不当な内容です。06勧告をめぐって焦点となっていた官民比較方式の見直しについて、「比較対象企業規模を従来の１００人以上から50人以上に改め、比較対象従業員にスタッフ職を加えるなどの見直しをした結果、月例給の官民格差はほぼ均衡」とし、特別給についても「概ね均衡」として、「据え置き」するというものです。

しかし、従来の比較方式であれば、人事院も認めているように、月例給では１・12％のプラス格差となり、一時金についても０・05月の支給月数増となるものです。これは、小泉内閣の「06骨太方針」や財界の意向に沿った事実上の公務員賃金の削減であり、人事院の「第３者機関」としての役割を自ら否定するものであり、断じて許すことはできません。しかも官民比較方法の見直しは、将来にわたって賃下げの仕組みをつくりだすものあり、到底容認できるものではありません。また、「勧告」では、「給与構造改革」として、地域手当の暫定支給割合を定めることと併せて、「査定昇給制度」及び「勤勉手当制度」における勤務成績の判定措置を来年度から一般職へ拡大することを強調しており、公務職場に成果主義賃金を押しつける不当な内容になっています。

このような極めて不当な06勧告に対し、職場から強い怒りの声をあげ、抗議の職場決議を集中し、人事委員会や自治体首長に「人事院の06勧告に追随するな、賃金改善を」の要求で迫りましょう。

委員長あいさつ

悪政の流れを変え 政治革新を

羽根克明
県本部執行委員長

小泉構造改革はあらゆるところに痛みをもたらしているし、公務や地方について規制緩和や民営化などの攻撃がある。国民の公共サービスに対するたたかいを他団体や住民のみなさんといっしょにすすめ、４月には７団体共同で「小さな政府を国民の目から考えるシンポジウム」を開催してきた。自治体病院の診療科廃止などの攻撃に、公立尾陽病院の良くする会や新城市民病院の住民アンケート、則武保育園の保護者と廃園反対の運動が繰り広げられ、自治研活動と住民共同のとりくみが大切であることが確認された。

自治体キャラバンを５月に行い、非正規職員や時給調査をしたが、３割から５割の非正規職員が存在し、時給も大変低い。自治体労働組合がこれを組織化していかなければならない。

07年は選挙の年。２月には県知事選挙、４月に一斉地方選挙、７月に参院選挙を迎え悪政の流れを変える絶好のチャンス。県知事選挙は県政の会の中核部隊として自治労連が奮闘しよう。暮らし中心の県政に転換することや国の悪政から住民を守る防波堤の役割を発揮するためにがんばろう。

小泉悪政を告発し民間の仲間や国民との共同を大いに広げよう

山本代議員
（幸田町職労）

今年1月、幸田町で保育園民営化検討委員会を組織5回にわたり会議をもつ。定員われの保育園を幼稚園にまかせたいというのが町長の本音。28年間無投票だった町長選が行われる。組合として保育園民営化・合併問題など公開質問状を候補者に届け、内容を広く町民に知らせる「町民ニュース」を発行。公立保育園の動きなどをまとめ、新聞折り込みで配布予定。保護者向けアンケートも準備している。保護者の声を聞きながら連帯していこうと保護者に協力を呼びかけている。8月中に運動をつくっていきたい。臨時100人を超える中、アンケートで雇用不安や組合への要望を96人から回収した。

山崎代議員
（新城市職労）

新城市民病院は東三河北部医療圏の基幹病院という役割を持っている。3市町村による合併や市長選挙が行われ、今年4月には新院長を迎え、経営改善にむけてがんばっている。医師不足から夜間、休日診療が大変困難になっている。30床が今では221床に減り、34人いた医師も19人に減っている。二次救急も果たせず近隣自治体へ搬送される状況となっている。署名運動を住民にも呼びかけながら行うことや、新城市の医師会や薬剤師会などとも懇談をもっていく予定。貧富の差なく医療が受けられるよう弱い人々に政府は目を向けてほしい。住民のいのちと安全を守る地域医療の発展のため住民の方と手をとりあってがんばりたい力を貸してください。

賃金・労働条件と職場改善のとりくみ

加藤代議員
（瀬戸市職労）

昨年14件の公務災害で内6件が臨時職員。4月以降5件の公務災害が発生。月100時間以上の時間外労働産業医の面接を行うよう労安法が改正された。4月以降4人の対象者があり、労働組合としても実践させていきたい。長時間残業をなくすようにしていきたい。

伊藤代議員
（豊橋市職労）

現評として3月15日フォーラムを開催し、吉田豊氏による公務を担う私たちの仕事について講演学習会を開催。若手の組合員も参加してくれた。

北部調理場が平成21年に建設される。組合として反対を表明し、給食闘争委員会を結成した。提案以降3回の交渉を全員参加で行ってきた。この秋に向け、6万枚のビラを作成し準備している。環境職場も3人乗車を2人にしたいと提案があり、土木事務所も直営でやっているが20人削減提案がされてきた。現業職場といえども、公務員としての自覚と住民サービスに応える体制をつくることが大切。

河合代議員
（豊橋市職労）

自治研活動を住民と共闘してすすめ、住みよい豊橋の街を作るために運動している。「子育てするなら豊橋で」をスローガンに児童館を各校区に一つつくる運動を進めている。行政を携わる人が市民のいのちやくらしに責任を持たせることが大切。住民と一緒に運動をしていくことが大切だと実感している。

市民団体と署名にもとりくみ、自治体職員である私たちの役割を発揮することが必要だ。職員が市の政策立案づくりに関わる場合も、住民の声を聞いて仕事をすることが大切。保育の現場から保護者の声を受け止めながら運動していきたい。

中根代議員
（蒲郡市職）

当局は市民への補助金削減や議員定数削減など財政難を理由に推し進めきた。今年6月議会で、ラグーナ蒲郡への増資問題が審議。当初は4分の1、4億8千万円だったが運営が厳しいため10倍の48億、市の負担も12億円とすること。土地や建物の評価額が目減りするとしてトヨタが押しつけてきた。物納含め28億円の出資を決めた。無責任な提案を強引にすすめ、市民から不審や不満が広がっている。また、蒲郡の医師会休日救急診療の委託料年間5300万払ってきた。最終的に精算払いとなり2000万近くは払いっぱなしとなっている。内部問題を明らかにしてどうするか9月議会に審議。市民や職員にとってどうなのか政策化を組合としてもしっかりやっていきたい。

田島代議員
（岩倉市職）

当局の地域手当3％手当提案に対して昨年末から交渉を重ね、今年に入り組合未加入者も含め120人に及ぶ決起集会をもった。1月20日総務部長交渉をもち、240筆の署名を提出。保留となり、2月6日の交渉で10％を確保することができた。パート保育士の参加も多く、切実な声が多く出された。

中川代議員
（名古屋市職労）

産別統一闘争の成果がますます求められる。総務省の攻撃が厳しくなればなるほど強く求められる。

組織拡大ではより身近な仲間が呼びかけることが一番効果的。共通の職場があり、悩みや要求をもとに訴えることが一番大事。

要求実現のたたかいでは、名古屋市の通達員は賃金2割カットの攻撃をうけ、組合がないため泣き寝入りしていた。しかし、組合を作って要求実現のとりくみをすすめて成果をあげてきた。

悪政が厳しいほど、住民の前に自治体労働者が立たされることになる。労働組合が職場に展望を指し示す、その実践こそが展望を作り出すことにつながる。

小泉悪政を告発し職場を基礎にたたかう

松本代議員
（名古屋市職労）

老齢者に直撃で住民税が4000円から10倍の値上げに。老年者控除が17年分から廃止され、雑損所得の計算が改悪されたせいで少なくても10倍近い値上げ。国民健康保険や介護保険料にも反映される。窓口や電話が住民から殺到。

中村区は高齢化率が一番市内で高い。125万円以下の65歳以上の方にも税金がかかることになった。住民税がかかることで介護保険は課税か非課税で算定される。小泉路線の先端で住民に影響があり、障害者手帳などの控除の可能性のある人に説明している。労働組合として悪法阻止のためにがんばりたい。

三浦代議員
（名古屋市職労）

先日、週刊ポストに「住民税が10倍これが小泉改革の正体」と書かれていた。住民税非課税世帯の基準が改悪、老年者控除も下げられ老年者への大増税がされた。市県民税をもとに算出される国民健康保険料や介護保険料の大幅引き上げに窓口に住民が殺到。区役所職員もメンタルの病欠者が発生している。区役所協議会で住民ビラを配布し、「あんたらに言っても仕方ないけど、これも小泉政治のおかげだね」と言われる。政治家やキャリアなどに軌道修正させるために今後も組合活動を頑張りたい。

桐山代議員
（名古屋市職労）

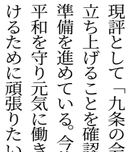
すべての世代を直撃する医療制度改悪。08年には老人保健法がなくなる事態。保健所の仕事をどうするか？労働者の側から提案し、市民に提供しながら進めることが大切。予算要求もトップダウンになっているが、一律予算削減は許されない。市民本位に財政を変えさせる事が必要市民の健康要求に応えたい。保健所作りに向けて運動をしていく。全国交流集会を6月に開いたが今後も成功にむけて頑張りたい。

職場に「九条の会」を発足 平和守るとりくみを

近藤代議員
（名水労）

日本の経済格差が広がりOECD加盟国の中で相対的貧困率がアメリカに次いで世界第2位という結果が発表された。原因は、この非正規雇用の拡大による2極化にあること。

6月29日名水労大会で役員体制も若返りを迎えた。基本課題は①格差社会にとりくもう。②社会保障制度改悪や消費税増税に反対する。③公的責任を放棄する動きを食い止める。④憲法9条改悪をゆるさない職場やいのちを守るとりくみを強めよう。水プラン22（18年～22年に上下水道局で230人を削減を提案）。しかし、継続して新規採用者を勝ちとってきた。水道サービスの職員とも共同してすすめていく。名水労9条の会のとりくみもすすめたい。



波多野代議員
（名古屋市職労）

自治体リストラのとりくみとして学校調理員・用務員を新規採用の継続を確認させてきた。地域の子どもまつりや食ネットなどのとりくみによるもの。憲法を守るために、名古屋現評は学習会を開いたり、愛知の戦跡めぐりをしてくる中、現評として「九条の会」を立ち上げることを確認して準備を進めている。今後も、平和を守り元気に働きつづけるために頑張りたい。

伊藤代議員
（名古屋市職労）

環境局支部は昨年11月「環境9条の会」を発足させた。誰もが参加できるよう組合の違いを超え、OBの方も視野に入れてこの名称にした。学習会も計画して、勤労者通信大学憲法特別コースに30人が参加してきた。組合の活動に狭めないようにと、先日6月24日に金山駅前で九条を守れの宣伝行動を行ってきた。大変好評で、「九条守るためにがんばれ」の励ましを受けた。

米軍再編・日米軍事演習強化など様々に戦争への準備が進んでいる時代に住民のいのちとくらしをまもるために環境局支部も先頭に立ってがんばる。

望月代議員
（春日井市職労）

ピースフェスタイン春日井を7月30日から市役所で展示。平和行進も4つのコースに参加。高蔵寺弾薬庫をまわる平和マラソンもやってきた。小牧の平和集会も9回目を迎えた。春日井市に憲法連絡会もできて、6月4日には9条の会を発足。地区協も年に1度、駅頭宣伝をして多くの組合員が参加。イラクの自衛隊撤退と報道されているが、戦争に企業がからんでいる。陸自の撤退と逆に航空自衛隊が強化されている。C130などがいっそう配備が進んでおり、C130の格納庫建設なども準備されている。

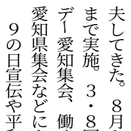
保育部会の機関紙も表彰されたが、組織強化・拡大にも力を入れていきたい。

刈谷市の倉田さんから過労死認定を求める訴えもありました

加藤代議員
（名水労）

青年部は12人の常任体制で、役員も新しくなった。3月東京平和ツアーを企画した。千鳥ヶ淵墓園や靖国神社を見学。戦争に関するいきさつを説明され、戦争博物館である遊就館について見学し戦争賛美の歴史認識をもつ施設であり、首相が個人の自由で参拝できる神社ではないと感じた。

東京大空襲戦災資料センターも見学。一夜にして焦土と化したことなどを説明された。5月の報宣会では、参加できなかった人たちにもわかるようにパワーポイントで報告。原水禁世界大会に向けて、青年メッセージを呼びかけている。9月30日青年部大会を開催。



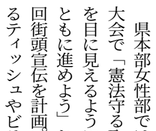
古田代議員
（名古屋市職労）

6月30日に青年部で税金学習会を行ってきた。税金の使われ方、増税がどのようにされて健康保険・介護保険など値上げされるのか、外国の税金のしくみなどについておこなった。事前に役員が学習して講師をしてきた。国民に増税を求めなくても財源問題は解決できることがわかった。

6月18日にはピースタイムという活動で名古屋の戦跡巡りを実施。名古屋市役所が迷彩柄のように部分的に黒く塗られていたこと、熱田大空襲などの戦跡をめぐって学ぶことが出来た。

中川区役所で9条の会を発足させてきた。住民を戦争に巻き込むのではなく、平和で有り続けること、憲法9条を守るとりくみをできることからはじめよう。

県本部青年部としても各単組での協力をよびかけたい。



酒井代議員
（名古屋市職労）

県本部女性部では昨年の大会で「憲法守る取り組みを目に見えるように学習とともに進めよう」と、月1回街頭宣伝を計画、配布するティッシュやビラなど工夫してきた。8月から6月まで実施。3・8国際女性デー愛知集会、働く女性の愛知県集会などにも参加。

9の日宣伝や平和夏祭りなどもおこなってきた。改憲進める悪法の9月国会にむけて、8月9月の取り組みが重要となっている。女性部として今後もがんばりたい。

来賓のみなさん

自治労連本部
駒場忠親委員長

愛労連
樽松佐一事務局長

日本共産党
八田ひろ子前参院議員

組織拡大・強化を後継者の育成めざして

後藤代議員
（港職労）

青年部活動に地区協や単組がどうかかわってきたか。07年問題、退職者がごっそりで世代交代が求められる。30代が役員の中心に。名古屋ブロック港地区協議長に港職労から役員を出している。新入職員歓迎会を企画した。約30人が職場の交流をして、組合活動も理解できた。組合に興味をもってもらい、今後も継続していきたい。ラ・メールの公演会も実行委員会に参加して成功させてきた。

安藤代議員
（名古屋市役所関連労組）

可燃・不燃・粗大ゴミ、屎尿収集や資源収集などの作業員は、嘱託65％、有期35％で、市の職員と全く同じ形態で仕事している。14年前に100％出資するリサイクル推進公社を設立。固有の職員は置かない事など確認し、出向でやってきたが、実態に合わないビン・缶収集について公社でOBをいれた。02年9月市議会で指摘があり、03年4月から、「業務委託の推進が求められ、有期雇用職員を入れたい」と提案。直営と同質の雇用水準を守らせるようとりくんでいる。有期雇用職員を組織する必要があると26人の有期雇用業務員を組合に組織してきた。

今村代議員
（豊橋市職労）

豊橋市職労青年部は勉強会として、地域給について開催し2日間昼休みに青年100人近くが参加。青年部機関紙「KAZAGURUMA」にも活動を紹介している。更なる進化をしようと、平和活動に力をいれてきた。東京に平和ツアーを送り出し、平和行進もデコレーションして思いを伝えてきたし、シールも青年が作り配布してきた。

青年にどんな興味があるのか？　青年部員が少なくなるなかで、組合への関心も高め結束を強められるよう進化させていきたい。

ら、定期預金について変更も検討していきたい。

現行、臨時・パートの組合費の扱いについて意見があった。自治労連共済について、共済活動費を大きく貢献させることが発言。単組でも共済加入者拡大を進めて欲しい。

全体として反対はなく、財政関連議案は小委員会で承認された。

財政小委員会報告

奥村委員長

財政小委員会は41名中24名が参加し、9名が発言。

県本部への組合費納入負担割合大きく、なんとかしてほしいという要望。県本部として、財政効率を高めながら本部にも要望していると回答があった。

自治体民主化特別資金について県知事選挙どのような支出をするのか質問に、要求実現にむけて協力共同をすすめ、ビラなどの買い取り、その他中央委員会で知事選方針で具体化したいと回答。金利の問題で上向きの状況について、ペイオフ対策にしているが、今後の見通しで判断しながら、定期預金について変更も検討していきたい。

組織強化・拡大を 臨時職員の組織化すすめて

中村代議員
（豊川市職労）

今年２月に一宮町と合併。新規加入を呼びかけ豊橋・小坂井の仲間の協力で朝ビラを実施。学習会を計画して１００人近くいる対象者のうち10数名参加。保育園職場にはある程度訴えが届いたが、一般職にはまだ。給与格差の改善を組合から要望して認めさせてきた。効果的な方策などあれば教えてほしい。豊川市民病院を新たに建設。２００億円といわれる工事費。将来への影響が考えられる。市民のための病院としていけるようにしたい。図書館勤務のパート職員、土日の割り増しもないが改善をもとめていきたい。豊川海軍こうしょう見学会を８月７日に予定している。ぜひ希望者は連絡を。

村田代議員
（名古屋市職労）

組織拡大について効果的な方策はない。名古屋市職労も執念をもって４月から１００％獲得しようとやってきた。３年連続新規獲得７割に。区役所の通達員１６０人組織して３年経過。自らが仲間を組織しなければ自立できない。臨時保育士は到達点をパンフにまとめ、各保育園をまわって加入を呼びかけている。通達員も昨年初めて、市民検診１０００円分を勝ち取る。門前で加入呼びかけのチラシを配布する。知恵を絞りながら一人二人と増やすことが大切。トヨタ総行動が継続して行われ、世論を動かしてきたことに確信をもとう。区役所協議会がビラ配布して増税反対の世論を広げた。靖国の天皇メモなどの新聞発表させてきたのも、世論に押されてきたもの。年寄りいじめ国民いじめ許せないの声を広げていこう。

矢野代議員
（清須市職労）

３町合併で清須市になった。人事交流の中で組合未加入者や臨時職員などにも加入を呼びかけ。15人の組織拡大を達成。歓迎会も盛大におこなってきた。学習会を計画して、組合の役割や地域活動について学ぼう。来年の合同研究集会に実行委員を選出したい。

夏祭りも実施し、保護者と保育士などが協力しあって成功させることができた。９月には平和のつどい、１月には親子の集いなども計画している。子育てが難しい中で親と子が一緒にやれる活動をめざしていきたい。

長坂書記長 まとめの答弁

28人の発言がされた。瀬戸の加藤代議員の休憩休息問題を大きくとらえることが発言された。豊橋から、民営化路線や職員定数を削減していく集中改革プランで本当にいいのか。自治体労働者の職場改善をすすめる事こそが大切。職場から住民のくらし守るとりくみをすすめ、小泉悪政から国民を守ることが大事。名古屋市の区役所協議会が市民向けビラを配布したことや、窓口の住民に「みなさんが選んだ国会議員がこうしたんですよ」と語ることなど小泉悪政を告発していくことが必要であり、民間の仲間と共同して「もう一つの日本つくる」とりくみを大いに進めよう。

名古屋の則武保育園や田原、豊橋、新城などでも住民を巻き込んだ運動で大きなうねりを作っている。幸田町でも町民ビラをまこうと地域につながる活動を広げている。

臨時・非正規の組織化では、アンケート活動で幸田が思い切ったとりくみを進めているし、組織担当オルグ員について意見が出された。自治労連本部としても専任オルグ員を確立して組織拡大につなげようとしている。後継者育成の活動は豊橋や名古屋や県本部青年部から報告され、つながりをどう作っていくか自分たちが主人公となるように活動することで成長していく。組織強化拡大では、粘り強く活動し、構えを大きくもって組合員みんなが関心をたかめながら組織化することが必要である。

青年部、女性部、環境局支部や春日井から平和への思いが補強された。田原でも１００筆やる組合員がいるし、清須市の保育職場でもよくやっている。もう一歩踏み出せばもっと大きな変化を作れる。くらし守るために大いに結集していこう。

鈴木代議員
（半田市職）

臨時職員の組織化50人に及ぶ。課題なども出ているが雇い止め問題などで交渉をもっている。臨時職員の痛みに我々が考えていかねばならない。組織活動について改めて考えねばならない。オルグ員問題も検討が必要。今後、単組の中で組織拡大を新規採用者拡大についても検討していかねばならない。事務職の加入が進んでいないことも課題。県本部としても考えてほしい。

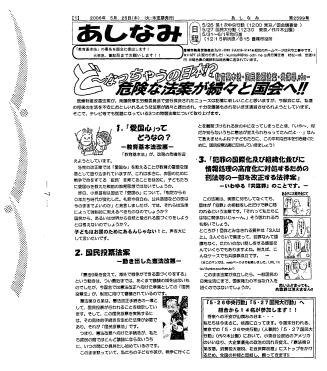
組合員の元気な姿が機関紙で登場

2006年 県本部機関紙コンクール

14単組 1地区協39紙が応募

組合員と執行部のきずなである機関紙の交流と発展のため、今年も県本部関紙コンクールを開催。第１種（政令・都市職の機関紙、ニュース）、第２種（町村職単組、政令・都市職の支部・分会の機関紙、ニュース）、第３種（補助組織、職域部会、専門部などの機関紙、ニュース）とし、応募総数は14単組1地区協39紙。入賞されたみなさんを定期大会で表彰しました。おめでとうございます。

第１種　あしなみ（豊橋市職労）
第２種　衛生支部（名古屋市職労・健康福祉局衛生支部）
第３種　おむすび（春日井市職労保母部会）



単組定期大会　役員紹介

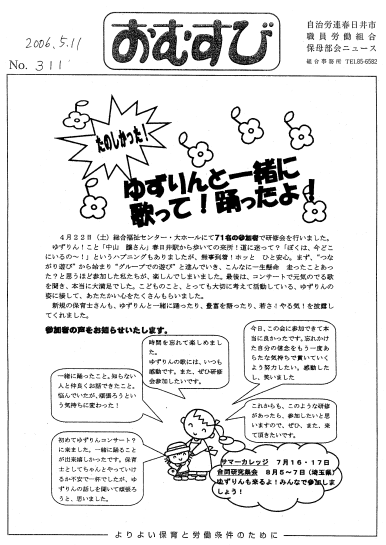
港職労（7月25日）
執行委員長　加藤　隆則
副委員長　脇坂　宗勝
〃　熊谷　一幸
書記長　高木　強

豊川市職労（8月3日）
執行委員長　瀧川　務
副委員長　浦野　芳正
書記長　忠内　元志

「入賞作品一覧」

第１種（政令・都市職の機関紙、ニュース）
- ▼優秀賞　「あしなみ」（豊橋市職労）
- ▼入賞　「岩倉市職ニュース」（岩倉市職）

第２種（町村職単組、政令・都市職の支部・分会の機関紙、ニュース）
- ▼優秀賞　「衛生支部」（名古屋市職労・健康福祉局衛生支部）
- ▼入賞　「みなみ」（名古屋市職労・南区役所支部）
- 「中川かわら版」（名古屋市職労・中川区役所支部）
- 「安城ヘルパーニュース　ＷＡ！和！輪！」（自治体一般・安城ヘルパー分会）
- 「蒲郡市職組病院支部ニュース」（蒲郡市職・病院支部）

第３種（補助組織、職域部会、専門部などの機関紙、ニュース）
- ▼優秀賞　「おむすび」（春日井市職労保母部会）
- ▼入賞　「ふうせん」（名古屋市職労・千種区役所支部婦人部）
- 「あらぐさ」（名古屋市職労・健康福祉局支部保育園部会）
- 「のびっこ」（豊橋市職労・福祉支部保育園）

（特別賞）
- ▼仲間を励ます賞　「田原市職労ニュース」（田原市職労）
- ▼職場の元気があふれる賞　「なごや市職」（名古屋市職）
- ▼期待賞　「にしく」（名古屋市職労・西区役所支部）
- ▼進化する賞　「風車（かざぐるま）」（豊橋市職労・青年部）
- ▼仲間をつなぐ賞　「おおきいなかま」（犬山市職労・保育支部）